



水道事業会計

令和2年度決算の概要について

収益的収支（3条予算） 【税抜き】

- ▶ 当該年度の企業の経営活動に伴い発生するすべての収益とそれに対応するすべての費用を計上します。

（単位：円）

	R2 決算額	R1 決算額	増減	R2予算に対する執行率
水道事業収益	6,244,764,233	6,399,185,742	△154,421,509	97.43%
営業収益	5,797,274,019	5,938,243,779	△140,969,760	96.66%
営業外収益	446,660,336	454,933,142	△8,272,806	109.59%
特別利益	829,878	6,008,821	△5,178,943	5052.56%

	R2 決算額	R1 決算額	増減	R2予算に対する執行率
水道事業費用	5,815,215,144	6,021,307,782	△206,092,638	96.40%
営業費用	5,672,102,535	5,862,080,539	△189,978,004	96.44%
営業外費用	141,613,209	157,193,567	△15,580,358	99.29%
特別損失	1,499,400	2,033,676	△534,276	30.19%
予備費	0	0	0	0.00%
純利益	429,549,089	377,877,960	51,671,129	—

収益的収支のポイント①

▶ 水道事業収益

事業収入の総額：62億4,476万4,233円（前年比1億5,442万1,509円の減）

◎主な要因：給水収益の減少による営業収益の減少

⇒新型コロナウイルス感染拡大による市民等の負担を軽減するため
6月、7月調定分の基本料金を免除（1億3,001万6,120円減）。

▶ 水道事業費用

事業費用の総額：58億1,521万5,144円（前年比2億609万2,638円の減）

◎主な要因：原水及び浄水費の減少による営業費用の減少

⇒県水の受水費が減少したため（1,433万2,342円減）。

⇒修繕費が減少したため（1億1,383万6,018円減）。

令和元年度は仙波浄水場等の大規模修繕を実施。

※基本料金免除の影響を考慮し、業務委託料などを業務に支障のない範囲で削減。

収益的収支のポイント②

▶ 収益的収支

純利益：4億2,954万9,089円（前年比5,167万1,129円の増）

⇒基本料金免除により収入が減少したものの
新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して
執行の抑制に努めた結果と考えられる。

▶ 1 m³当たりの供給単価と給水原価の比較

供給単価－給水原価：136.54円－141.86円＝5.32円の差損

供給単価：有収水量 1 m³当たりの水道料金

給水原価：有収水量 1 m³当たりにかかった費用

差損が出ている

⇒水道水を提供するための費用を水道料金でまかなえていない

資本的収支（4条予算） 【税込み】

- ▶ 市民に対するサービスの提供を維持するための諸施設の整備、更新など建設改良のための支出とその財源となる収入を計上します。

（単位：円）

	R2決算額	R1 決算額	増減	R2予算に対する執行率
資本的収入	938,594,000	782,574,938	156,019,062	96.39%
企業債	700,000,000	600,000,000	100,000,000	100.00%
他会計負担金	35,741,000	52,724,000	△ 16,983,000	99.51%
工事負担金	115,524,000	43,254,638	72,269,362	88.81%
水道施設加入金	87,289,400	84,230,960	3,058,440	81.00%
固定資産売却代金	39,600	2,365,340	△2,325,740	3960.00%

	R2決算額	R1 決算額	増減	R2予算に対する執行率
資本的支出	2,678,384,104	2,569,485,015	108,899,089	86.49%
建設改良費	2,019,687,529	1,932,172,101	87,515,428	83.01%
企業債償還金	658,696,575	637,312,914	21,383,661	100.00%
予備費	0	0	0	0.00%
資本的収支の不足額	1,739,790,104	1,786,910,077	△47,119,973	—

資本的収支のポイント①

■ 資本的収支

資本的収入：9億3,859万4,000円（前年比1億5,601万9,062円の増）

⇒対象事業の増加に伴う、企業債及び工事負担金の増加など。

資本的支出：26億7,838万4,104円（前年比1億889万9,089円の増）

⇒重要施設配水管及び老朽管を更新する配水管更新事業の増加など。

資本的収支の不足額：17億3,979万104円

※不足額の補填財源

・消費税資本的収支調整額

⇒4条収支における消費税の差額：1億5,066万6,696円

・損益勘定留保資金

⇒減価償却費など現金支出を伴わない3条費用等：11億8,912万3,408円

・減債積立金

⇒企業債償還に充てるため過去の利益を積み立てたもの：2億円

・建設改良積立金

⇒建設改良に充てるため過去の利益を積み立てたもの：2億円

資本的収支のポイント②

■ 工事の状況

布設工事：1,316m（大字大仙波地内配水補助管布設工事 等）

改良工事：14,019m（重要施設配水管耐震化工事（大字伊佐沼ほか） 等）

第三次浄水場整備事業（仙波浄水場場内管路耐震化その他工事 等）

- 予算では、布設工事を2,090m、改良工事を15,085m施工予定
⇒ おおむね予定通りに事業を実施できたが、
目標更新率は達成できていない。

■ 管路更新率（当該年度に更新した管路延長の割合）

0.96%（目標更新率は1.0%）

収益的収支と資本的収支の関係 (3条予算と4条予算)

3条予算



内部留保資金

損益勘定留保資金、消費税資本的
収支調整額

減債積立金、建設
改良積立金、未処分
利益剰余金

4条予算

資本的収入

企業債、補助
金、負担金な
ど

内部留保資金
による補填

資本的支出

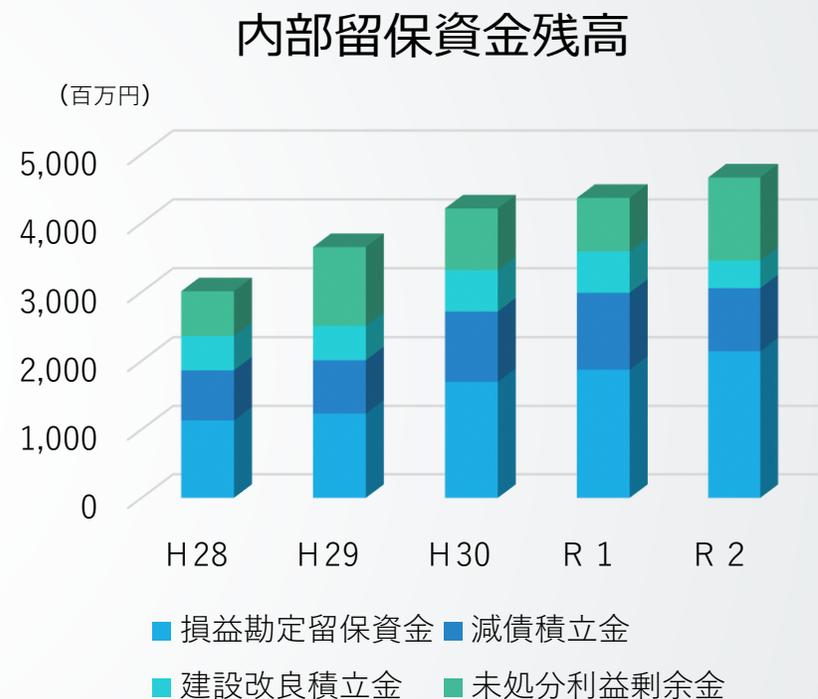
工事請負費、
企業債元金の
償還など

企業債残高と内部留保資金残高の推移



▶ 企業債残高（建設改良のための借金）

71億5千万円～73億5千万円の間で推移しています。



▶ 内部留保資金残高（建設改良のための資金）

増加傾向にあり、H28からR2の5年間で約16億円増加しています。

令和2年度決算のまとめ

■ 収益的収支

- ・ 基本料金免除による減収があったが、事業抑制を図り純利益を出すことができた。
- ・ しかし、水道水を提供する費用を水道料金でまかなえていない。
- ・ 中長期的には人口減少による給水収益の減少が見込まれる。
- ・ 将来を見据えた適正な料金水準を検討する必要性が生じている。

■ 資本的収支

- ・ 工事など建設改良の減少により減価償却費が減少すると、損益勘定留保資金が減少して、資本的支出の資金である内部留保資金が減少してしまう。
- ・ 今後は災害に備えるため、基幹管路の耐震化や老朽管の更新などに多くの資金を必要とする。
- ・ 目標更新率を達成した場合、資金は不足しないか検証が必要である。